

## 平成 30 年産の稲作は「稲わらの秋すき込み」からスタート！

- 刈り遅れた稲は、ていねいな乾燥・調製で格落ちを防ぎましょう！
- 稲わらを 10 月中旬までにすき込みましょう！
- もみ殻をケイ酸質資材としてほ場に還元しましょう！
- 堆肥や土壌改良資材を活用しましょう！
- 玄米の盗難対策を徹底しましょう！

### 1 刈り遅れた稲の籾の乾燥・調製

- (1) 適期に刈取りができないと、着色粒や胴割粒が増加して品質が低下します。倒伏した場合は、穂発芽も発生しやすくなります。
- (2) 乾燥時は胴割れの発生増加を防ぐため、毎時乾燥速度が 0.5% 以下になるように乾燥機の送風温度を低く設定しましょう。
- (3) 1.9 mm のふるい目や色彩選別機の活用で品質向上を図りましょう。
- (4) 墨黒穂病や稲こうじ病が発生した場合は、イネが乾燥している状態で収穫し、無発病ほ場のもみとは別に乾燥・調製を行いましょう。

### 2 稲わらの秋すき込み

- (1) 稲わらの秋すき込みは堆肥施用と同等の「土づくり」効果があります。
- (2) 以下の点に注意して、稲わらの秋すき込みを行いましょう。

**注意①** 稲わらを春にすき込むと田植え後のワキの発生が増加し、初期生育が抑制されます。



稲わらは秋にすき込みましょう

**注意②** 秋が深まり気温（≒地温）が低くなると、稲わらをすき込んでも分解しません。



稲わらのすき込みは収穫後できるだけ早く（遅くとも 10 月中旬までに）行いましょう

**注意③** すき込み時に深耕すると、下層の稲わらは分解しません。



耕深は 5～10cm の浅うちとし、稲わらと土壌を十分に混和しまししょう

### 3 ケイ酸供給源としてのもみ殻の有効利用

- (1) 多くの水田土壌でケイ酸が不足しており、ケイ酸質資材の施用が必要な状態です。
- (2) もみ殻はケイ酸を約 20%含む有用なケイ酸質資材です。
- (3) 玄米収量 540kg/10a の水田から得られるもみ殻は約 130kg/10a で、これを全てほ場に還元すると、ケイカル 80~100kg/10a 施用と同等の効果が期待でき、土壌物理性（保水性や排水性）も改善します。
- (4) 以下の点に注意して、もみ殻を稲わらと一緒に秋すき込みしましょう！

注意① もみ殻を多量に施用するとワキの発生等でイネの生育が抑制されます



施用量は各ほ場から得られたもみ殻量を基本とし、均一に散布しましょう

注意②

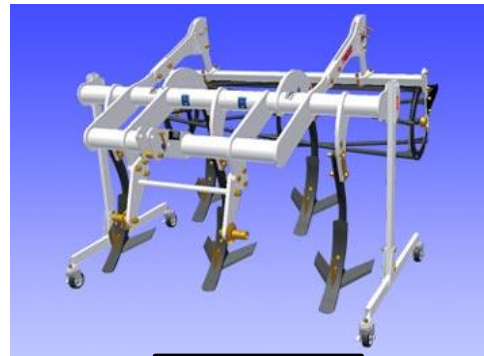
ごま葉枯病、稲こうじ病、墨黒穂病が  
多発生したほ場のもみ殻

雑草種子が多量に混入したもみ殻

翌年のイネの病気や雑草の発生源となるのでは場には施用しないようにしましょう

### 4 堆肥や土壌改良資材の積極的な施用

- (1) 近年、ケイ酸やリン酸、加里等が減少しているほ場が増加しています。
- (2) 土壌診断に基づき、不足している成分を補う土壌改良資材を施用しましょう。
- (3) 堆肥などの有機物の投入は、地力増進や土壌物理性の改善に効果的です。
- (4) チゼルプラウによる粗起こしは、ほ場の排水性を向上させ、稲わらの分解促進や乾土効果による初期生育の向上、春作業の効率化等が期待できます。



チゼルプラウ

玄米の盗難に注意！

倉庫に鍵をかけるなど、盗難対策を徹底しましょう

(担当：普及第1課 おおば 大峽)